



本郷台中だより

～明日も行きたい本郷台中学校～

令和8年度第5号

令和8年9月28日

文京区立本郷台中学校

校長 工藤 邦彰

○自ら学び、考え、行動する生徒。 ○互いを思いやり、尊重し合える生徒。 ○豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒。

「自然災害への備え」について考える

本文に先立ち、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨をはじめ、自然災害に被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、災害により亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

さて、9月1日は「防災の日」です。本校でも、学区域の小学校である本郷小学校、湯島小学校と連携し、引き取り訓練を含む総合防災訓練に取り組みました。（取組の様子は学校HP「本郷台中日記」にて紹介していますので、ぜひご覧ください。）

防災の日は、大正12年9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れないために制定されたもので、この日は文京区だけでなく、全国で防災訓練が行われています。私たちが生活する、この本郷の地は、武蔵野台地の東端に位置する歴史ある高台であり、古くから災害に強い土地として人々が暮らしを営んできました。本校も、防災気象情報で「警戒レベル3」が示されると、近隣住民の避難所が体育館を中心に設置されます。この9月も台風の影響等による大雨により、複数回、体育館にて避難所の準備が行われました。これは文京区役所の防災危機管理課が中心となって取り組んでいただいているが、自然災害のリスクは私たちのすぐ身近にあるという現れでもあると考えています。

災害発生時に避難所ともなる本校で学ぶ皆さんには、高い意識をもって、「守られる存在」から「自ら身を守り、時には地域や周囲の人々を助ける存在」になってほしいと願っています。今年度も4月に、2年生の皆さんは「防災宿泊体験」とおして、「自助」「共助」「公助」について理解を深めました。また、8月の輪島市復興支援事業に参加した2年生は、スポーツ交流の後、防災プログラム交流「体験を減災へ」をテーマに、被災時の対応について考えを深めました。これらの経験を踏まえ、この9月を機に、次の3点について家族と話し合い、自然災害への備えを強固にしてほしいと思います。

1 避難場所・避難経路の確認

登下校中や休日など、家族が離れ離れのときに被災した場合の合流場所（避難場所）や、そこに行くまでの基本的な経路を決めておく。

2 災害用備蓄品の確認

目安として3日分の水や食料、簡易トイレや懐中電灯といった備蓄品について、保管場所を決めるとともに、使用期限内であるか確認しておく。

3 危険箇所の確認

自宅にあっては避難経路の確保も必要ですが、地震発生時は窓付近が危険箇所になります。また、倒壊するおそれのあるものの付近も危険です。危険箇所の確認にあわせて、安全箇所（一般的に、強固な柱で囲っていることの多いトイレは安全性が高いと言われています）を確認しておく。

万が一の事態に備え、まずは「自分の身は自分で守る」という意識を高めるとともに、家族の一員として、地域の一員として、災害に立ち向かう力を高めていくことを期待しています。

※学校HP「本郷台中日記」をほぼ毎日更新し、日々の様子をお伝えしています。是非ご覧ください！